心に残っている一言についてお話しを致します。

カメラサークルに所属している私は、毎年 4 月に桜の写真を撮りに行きます。
豪華に咲き誇ってい木を選び、可憐なピンクの花びらに焦点を当てて、「パチッ」と一枚。（間）
桜は、春の訪れを告げ心を浮き立たせます。でも私は、桜の季節になると、母とのせつない記憶が蘇ってきます。

母が 82 歳の時、胃がんを患い手術をしました。
胃を全適出し、食道と腸をつなぐ手術です。1 ヵ月半入院して、退院してきましたが、元気に過ごしたのは 2 ヶ月くらいしかありませんでした。
寝たり起きたりの生活が始まったのは、世の中がそろそろ桜の季節になるという頃でした。自然が好きな母は、体調の良いときには、庭に出て、自分が植えた木々を見ながらゆっくりと歩いていました。しかし、折角の桜の季節なのに、庭に桜の木がありません。
私は母を元気付けるつもりで「いま桜が満開だよ」と言いました。すると母は「そういえば桜の花びらが一枚、玄関先に飛んで来たんだよ」と言ったのです。近所に、桜の木を植えてある家はありません。それなのに不思議でした。母に春を告げるために、どこからか飛んできたとしか思えませんでした。
　一枚の花びらから、母は、春を感じ、そして、
「知子が小さいときには、毎年、新宿御苑に桜を見に行ったね。あの時は楽しかったね」と懐かしむように言いました。
私は、胸が詰まって、何も言えませんでした。
あれから何十年たった今でも、桜を見るたびに、母の言った「桜の花びらが一枚、玄関先に飛んできていたよ」という言葉を思い出します。
なぜ私は、あの時、車に乗せてでも満開の桜を見せに連れて行ってやらなかったのかと、後悔の念に苦しみます。
一斉に咲く豪華な桜を見たら、少しは心を強く持って、病気と闘ったのではないかと思います。
もう今となっては、見せてあげることが出来ません。せめて仏壇にでも、そう思って毎年、桜を写します。
豪華に咲き誇っている木を選び、可憐な花びらに焦点を当て、「パチッ」。
今年も母に届けました。
心に残っている一言についてお話しました。